



ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 浦川 務
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

2月の意向

教皇の意向のために祈りましょう
【教皇の意向】難病の子どもたち
【日本の教会】信仰の証し人

1月1日世界平和の日
世界に向けられた教皇の平和アピール

ヨゼフ・アベイヤ司教 福岡教区長

カトリック教会の1月1日は「神の母聖マリア」の祭日であるとともに「世界平和の日」です。毎年、教皇は全世界に向けて「平和メッセージ」を発表します。今年のテーマは「あなたがたに平和があるように」「武器のない平和、武器を取り除く平和」に向けて。このように平和への呼びかけを新たにされた教皇レオ14世のメッセージは、下記QRコードにて全文をご覧ください。



皇のメッセージの大切さを強く感じます。今年に入ってから1カ月も経っていないのに、誰もが心配しています。本当に、どこへ向かっているのでしょうか。道を見極めるための光が欲しいです。

平和を求めて (画：MINO CEREZO 神父)
教皇レオ14世のメッセージは、タイトルから心に響きます。「あなたがたに平和があるように」「武器のない平和、武器を取り除く平和」に向けて。英語の原文を引用します。「Towards an unarmed and disarming peace」。

毎年のように、教皇は1月1日に世界平和の日のメッセージを発表されます。教皇レオ14世にとっては最初の平和メッセージです。最近の世界情勢を考えると、改めて教皇に選ばれたとき、聖ペト

教区創立100周年準備企画 分かち合い劇「ヨブ記～K氏の場合」

【日時】2026年2月23日(月・祝) 13時開演 終了後感謝ミサ
司式：ヨゼフ・アベイヤ司教
【場所】カテドラル大名町教会 大聖堂
【問合せ先】☎080・5270・2657 (濱崎)



一ひとはなぜ、この世で苦しまねばならないのかー
病を得てヨブに出会った一人の信徒。皆さんも信徒たちの「ヨブ記」の分かち合いに参加して共に与えられた「いのち」の意味を考えませんか？
脚本は信徒によるオリジナル、演出もキャストも音楽も全てが信徒による手作りです。劇終了後には参加した皆さんにヨブ記への思いを文章にいただき、感謝ミサの中で奉納いたします。実り多き四旬節の一日となりますように。

「武器なき平和」とは、多くの人々に非現実的に聞こえると思います。教皇は、これに対してはつきりと述べます。「復活したイエスの平和は、武器のない平和です。なぜなら、イエスの戦いは、武器なしに、歴史的・政治的・社会的状況の中で行われたからです」。世界の問題に対して無力さを感じますが、その

時こそ信仰は私たちに諦めさせないのです。平和こそ神のみ旨であり、人々の望みだと信じているからです。戦争やあらゆる形の暴力によって苦しんでいる人々の叫びを心に留めるなら、何もせずにはいられないはず。同じ天の父の子どもです。この人々の苦しみを思いながら、教皇は具体的に問いかけます。「2024年の間に世界の軍事費は前年比で9・4%増加し、過去10年間の連続的な傾向を維持しながら、2兆7180億ドル、すなわち世界の国内総生産(GDP)の2・5%に達しています」。

今年、私、私たちは、平和の実現のために何をしますか。「武器のない平和、武器を取り除く平和」と教皇に呼びかけられているときに、世界のあらゆるところで軍拡が叫ばれています。教皇のメッセージのことはヒントを与えてくれます。「希望を生きて保つ、あらゆる精神的・文化的・政治的な取り組みを促し、支える必要があります」。道が多いです。
ヨゼフ・アベイヤ

「武器なき平和」とは、多くの人々に非現実的に聞こえると思います。教皇は、これに対してはつきりと述べます。「復活したイエスの平和は、武器のない平和です。なぜなら、イエスの戦いは、武器なしに、歴史的・政治的・社会的状況の中で行われたからです」。世界の問題に対して無力さを感じますが、その時こそ信仰は私たちに諦めさせないのです。平和こそ神のみ旨であり、人々の望みだと信じているからです。戦争やあらゆる形の暴力によって苦しんでいる人々の叫びを心に留めるなら、何もせずにはいられないはず。同じ天の父の子どもです。この人々の苦しみを思いながら、教皇は具体的に問いかけます。「2024年の間に世界の軍事費は前年比で9・4%増加し、過去10年間の連続的な傾向を維持しながら、2兆7180億ドル、すなわち世界の国内総生産(GDP)の2・5%に達しています」。

ただ、平和構築は身近なところから始まります。聖アウグスティヌスのことばを引用して、教皇は書きます。「他の人々を平和に向けて引き寄せたいなら、まずあなたがたが平和をもちなさい。何よりもまず、堅固に平和を保ちなさい。他の人々を燃え立たせるためには、あなたがたが自分のうちに平和の火をもたなければならぬ」。確かに、身近な人々と和解できないなら、どうして平和のために働けるでしょうか。ゆるしと和解は、人権の尊厳と正義とともに、平和構築の大事な条件です。

「武器なき平和」とは、多くの人々に非現実的に聞こえると思います。教皇は、これに対してはつきりと述べます。「復活したイエスの平和は、武器のない平和です。なぜなら、イエスの戦いは、武器なしに、歴史的・政治的・社会的状況の中で行われたからです」。世界の問題に対して無力さを感じますが、その時こそ信仰は私たちに諦めさせないのです。平和こそ神のみ旨であり、人々の望みだと信じているからです。戦争やあらゆる形の暴力によって苦しんでいる人々の叫びを心に留めるなら、何もせずにはいられないはず。同じ天の父の子どもです。この人々の苦しみを思いながら、教皇は具体的に問いかけます。「2024年の間に世界の軍事費は前年比で9・4%増加し、過去10年間の連続的な傾向を維持しながら、2兆7180億ドル、すなわち世界の国内総生産(GDP)の2・5%に達しています」。

今年、私、私たちは、平和の実現のために何をしますか。「武器のない平和、武器を取り除く平和」と教皇に呼びかけられているときに、世界のあらゆるところで軍拡が叫ばれています。教皇のメッセージのことはヒントを与えてくれます。「希望を生きて保つ、あらゆる精神的・文化的・政治的な取り組みを促し、支える必要があります」。道が多いです。
ヨゼフ・アベイヤ

今年、私、私たちは、平和の実現のために何をしますか。「武器のない平和、武器を取り除く平和」と教皇に呼びかけられているときに、世界のあらゆるところで軍拡が叫ばれています。教皇のメッセージのことはヒントを与えてくれます。「希望を生きて保つ、あらゆる精神的・文化的・政治的な取り組みを促し、支える必要があります」。道が多いです。
ヨゼフ・アベイヤ

2025年聖年閉幕ミサ
次の聖年へと希望の巡礼は続く



大事な4つの要素を語るアベイヤ司教

前教皇フランシスコによりバチカンの聖ペトロ大聖堂の聖年の扉が開かれ、2025年の聖年が開幕した。1年後の12月28日、前年と同じく聖家族の祝日に全世界の各教区のカテドラル(司教座聖堂)において聖年への感謝の閉幕ミサが捧げられ、カトリック福岡司教区では、同日14時からカテドラル大名町教会においてヨゼフ・アベイヤ司教により閉幕ミサが捧げられた。2026年1月6日に聖ペトロ大聖堂の聖年の扉が教皇レオ14世によって閉じられ、このたびの通常聖年は閉幕した。

聖家族の祝日に約300人の信徒が聖年の閉幕ミサに集った。アベイヤ司教の司式、宮原良治名誉司教(佐賀教会協力)を含む23人の司祭団によるミサの冒頭で、司教は「聖年の免償を通して私たちに希望と平安を与えてくださった主のいつくしみに力づけられ、ナザレの家族の聖性を祝いつつ、この感謝の祭儀において賛美を捧げ、自らが罪びとであることを認めて、改めてゆるしを願うことにし

前教皇フランシスコは私たちに「希望の巡礼者」として歩むように呼びかけた。司教は説教の初めに、世界に和解と平和の必要を感じる今、このテーマはまさに時宜にかなっている」と強調した。さらに聖年をやり多くするための大事な4つの要素について話を進めた。それらは、「みことばに耳を傾けるだけでなくその示す道を歩む」「清められゆるしの秘跡を受けた私たちは互いにゆるしあう」「神の家に行く(巡礼)ときには共に行く」「排除された人々や困っている人々に寄り添い

が、司教はこのことも聖年の実りとし、閉幕ミサ献金は困難を抱えて必要とする人々に捧げることになった。最後に聖年の賛歌「希望の巡礼者」を全員で歌い終わると、「共に巡礼する中で何度も歌いました」という声が聞かれた。「これからも希望をもつて前教皇フランシスコの教えを守っていききたい」という声も。

世界は希望を必要としている。聖年は終わるが、いただいた恵みを活かして希望が届けられるよう希望の巡礼者として共に歩み続けていくことが強く願われる。

時の話題

“Minamahai kita (あなたを愛している) イザヤ 43・4”
— 奉獻生活の喜び —

現在、明光学園で宗教の授業を担当しています。毎年、建学の精神を伝えるために、新入生と修道院を訪れ、シスターの方に質問する機会を設けています。「ペールの下はどうなっていますか？」など、思わず笑ってしまう質問もあります。「どうしてシスターになったのですか？」シスターの方の召命物語を伺いながら、自分の歩みを振り返る時間にもなっています。

私も明光学園でイエス様のことを教えていただきました。大学卒業後に洗礼の恵みを受け、黙想会などに参加する中で、修道生活への招きを感じるようになりました。勇気を出して一歩踏み出そうと決心したとき、不思議なことに、歩む道も仲間も準備されていて、イエス様が一緒にいてくださることを実感しました。

Consecration (奉獻)とは、神様が一緒に聖なるものにしてくださること、私が奉獻されたのは他者への贈りものになるためだと教わりました。神様の呼びかけに応える、いつも神様が一緒に行ってください。私にできることは感謝だけです。修練期の前に「これは神様からのラブレター。度々味わってください」と神父様が教えてくださったイザヤ43章1-7節が私の支えです。先日母が帰天したときも、葬儀が終わり、ぼんやりとしたまま大牟田教会に行くと「Minamahai kita (イザヤ43・4)」という歌声が聞こえてきて、神様が共にいてくださることを思い出させてくれました。神様に愛されていることを自分の中に響かせながら、共に歩ませていただく。これが私の喜びです。

カノッサ修道女会
Sr.清田陽子



今や「生成AI」という言葉を聞かない日はありません。Chat GPTなどが急速に普及し文章作成や情報検索が便利になる一方、フェイクニュースの拡散といったリスクも懸念されています。前教皇フランシスコもG7サミットで、AIの倫理的課題を強調しました▼そのような中、カトリック教会の教えに特化した「Maestrium AI」(マジェスリウムAI)が2年前に開発され、世界160カ国以上に利用されています。「教導権」を意味するその名の通り、開発元のロングビアド社は、聖トマス・アクィナスの著作や教父文書、公会議文書など、約2万2600件もの教会文書をデータベース化しました。使用してみると一般的なAIとは一線を画す特徴が見えてきます。例えば「四旬節の意味」や「安楽死に対する教会の見解」を尋ねると、単なるネット情報のつぎはぎではなく、教会公文書やカテキズムに基づいた回答が古典的のリンク付きで即座に提示されます。ある司祭はこれを「教会のゲームチェンジャー(既存のルールや常識を大きく変える存在)」と評し、信頼できる神学的リサーチの道具として推奨しています▼AI特有の「ハルシネーション(幻覚)誤った情報を生成すること」のリスクはゼロではなく、地域教会のローカルなニュースや独自の慣習については、正確な答えが得られない場合もあります。それでも、膨大な教会の知恵の宝庫へ瞬時にアクセスできる点は画期的です。補助的な「道具」として賢く活用すれば、私たちの信仰理解を深める助けとなるでしょう。(J)

教会で過ごすクリスマス・年末年始 神に栄光 人に平和

2025年の聖年は幕を閉じたが、希望を胸に抱く巡礼者の旅が終わることはない。聖なる日、各小教区では言葉を超え、世代を超え、あるいは自身の名前の意味に思いを巡らせながら静謐な祈りと歌を捧げた。ここに紹介できるのはほんの一部だが、降誕の夜と新しい朝に訪れたそれぞれの交わりの中に、未来へ開かれた教会を、そして武器なき世界の姿を垣間見ることが出来る。

〈筑後地区〉 大牟田教会 聖霊がもたらした聖なる夜



多様な言語で捧げられる降誕ミサ

「聖堂いっぱい人が集い「しずけき」が歌われるなか、クエンさんがうたう日本語の答唱詩編。奉納の奉仕も多国籍の子どもたちも参加した。

幼子イエスと聖ヨセフ、聖マリア、ともしびを抱く子どもたちと3カ国の若者の侍者団、司祭の行列で主の降誕夜半のミサは始まった。タガログ語とベトナム語の朗読、フィリピン、ベトナムの3カ国語で作成した。多様な豊かさを生み出すと同時に一致を築きます。この一致は決して画一的なものではなく、引き寄せる力を持った多様性の調和です。福音化と

籍チームが担当。聖歌は英語、ベトナム語、日本語でうたわれ、多様性における一致を味わう時間を過ごした。タガログ語で朗読奉仕した清家アナリザさんは「アンティポロ（出身地）の教会でもきょう同じことばで朗読がされる」と感慨深げに語ってくれた。

夜半ミサは懐かしい顔と出会える貴重な場でもあった。30数年前に留学生として大牟田で暮らした男性がミサに参加して、旧知の人たちからニックネームで呼ばれ、旧交を温める姿が見られた。

ミサ後には、一人ひとりにプレゼントが配られ、温かい気持ちが増し、ベトナムの青年たちが毎年飾ってくれる馬小屋とイルミネーションに見送られて教会を後にした。

「聖霊は、たまもの多種多様な豊かさを生み出すと同時に一致を築きます。この一致は決して画一的なものではなく、引き寄せる力を持った多様性の調和です。福音化と

待ち望んだ主のご降誕の夜、祭壇の左に馬小屋、右には教会学校の子どもたちがそれぞれの願いや祈りを書き込んだカードを下げて飾ったツリー。教会学校の子どもたちが、毎週練習に励んだハンドベル「しずけき」の清らかなひびきの中を御子さまが小さな灯りとともに入堂され、馬小屋に入られました。

これまで幾度もご降誕祭ミサに与っていても、毎回新たな思いが湧き上がるのです。ミサの中で、大人の方3人の洗礼・堅信と幼児1人の洗礼式も行われました。1年間、金成千神父さまの講座を受けられた3人の受洗者の晴れやかな顔が心に響きました。

夜半ミサ、早朝ミサには合わせて130人ほどの方が与られました。ベトナム、フィリピン、韓国の方々も2割近くおられ、お互いにグータッチを交わし和やかでした。

降誕祭の余韻冷めやらぬうちに新年を迎えました。80人近い方たちと祈りを捧げました。海外の方はお国で新年を祝われたのかしらほどでした。神の母聖マリアの祭日に

いうものは、聖霊が教会にもたらす多様な豊かさを喜んで認めます」（『福音の喜び（117）』）を感謝し、共におられる神の誕生を祝う夜となった。

〈北九州地区〉 飯塚教会 ご降誕祭と新年



祭壇左の馬小屋の前で

拝領祈願では「おとめマリアを御子の母、教会の母として仰ぐ私たちが、永遠のいのちをとともに受けることができま

すように」と祈りました。マリア様の取次ぎを通して、戦争や災害に苦しむ人々のために祈りを続けていきます。

また、成人者の祝福式も行われました。幼かった子どもたちがいつの間にか大人になっている驚きと喜びを味わいました。この一年、主のお恵みを願って平和に過ごせるように祈りましょう。

川原未知子
昨年12月21日、北九州地区内の教会間における交流の一環として、教会学校の子ども

合同子どもクリスマス会
島崎教会 クリスマスの特別な祈り

今年も島崎教会ではクリスマス盛大に祝いました。聖堂一杯で歌をもつて幼いイエス様を迎えました。しかし、大事な一人ひとりが自分の心にイエス様を迎えることで、そのために私たちは待降節に入ると「みことばの会」

日中のミサではムスリムの青年とともにチーム・インドネシアが拝領唱をうたってくれたことも追記しておきたい。

福永真紀



子どもたちと過ごす楽しく有意義なクリスマス

私たちと共に過ごす合同クリスマス会を新田原教会で行った。新田原教会、行橋教会、豊津教会、直方教会、田川教会の教会学校のスタッフに呼びかけて参加した子どもたち、さらに、田川教会から久留米教会へ転籍した子どもたちを加えて50人ほどが参加した。ご家族、下町豊重神父（行橋・豊津教会）、ルーカス神父（直方教会）、イエスのカリス修道女会のシスター方などを合わせると100人近い参加者となった。

ミサの中で谷口尚志神父（新田原教会）は、「名前に意

を始めます。昼の部と夜の部2回です。次週の「聖書と典礼」のみことばの朗読後に、全員が心に響いたことばを分かち合います。ひとりで読んでいた時には気づかなかったことを知り、イエス様への思いが深まります。

もう一つ、「降誕前の8日間の祈り」があります。12月17日〜23日の19時半から30分間ですが、聖体顯示された聖堂で、祈りと歌、「教父たちの名文」の朗読、共同祈願があります。普段なかなか聞けない教父たちの名文を聞きます。それらは、「聖ペルナルド修道院長の説教―神

の心に入ると「みことばの会」

今年も島崎教会ではクリスマス盛大に祝いました。聖堂一杯で歌をもつて幼いイエス様を迎えました。しかし、大事な一人ひとりが自分の心にイエス様を迎えることで、そのために私たちは待降節に入ると「みことばの会」

味の無いものではなく、イエス様の名前にも意味があった。みんなも自分の名前にどんな意味があるのかを知って、イエス様と共に毎日を過ごす」と子どもたちの心に呼びかけた。子どもたちは、うなぎながら生まれてきたことに感謝の思いを感じていたようだった。

恒例となった手話を交えた「希望の巡礼者」の歌、ゲーム、下町神父の小品と腹話術、朗読と、次々盛りだくさんなメニューに、子どもたちは大いにしやいでいた。お昼はみんなで、新田原の信者さんたちが作ってくれたカレーを食べた。新田原の農家の皆さんが作った美味しいお米だったので、炊きあがったご飯は瞬く間に完食となった。

教会学校に通う子どもたちが少なくなくなった今日、大勢で集まることによって、子どもたちは教会が楽しいところだということを再認識したのではない。さらに、お互いに仲間意識を持つことを実感してくれたのだと思った。

新田原教会信徒
に來られる、「聖アウグスチヌス司教の説教」ヨハネは声、キリストはことば、「キリストにならう」と「第二バチカン公会議」神の啓示に関する教義憲章―キリストは全啓示の完成、「聖アウグスチヌス司教の『詩編講解』―あなたの望みそのものがあなたの祈りである」、「聖ペルナルド修道院長の『聖母賛美』―全世界はマリアの答えを待っている」、「聖アウグスチヌス司教の説教―まことは地から萌えいで、義は天から目を注いだ」です。

教父たちの名文を聞いて、イエス様の御誕生への期待が高まり霊的な喜びをいただきました。

荻原きよみ

サンパウロ 福岡宣教センター

営業時間:
10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業

- ・一般住宅（新築・改築工事）
- ・鉄骨工事
- ・RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る

株式会社 **みこころ舎**

問合せ
050-3032-1333

第76回 福岡市民クリスマス開催

私は福岡市民クリスマスが憎い！毎年、今年こそ泣かないようにしようと思いながら、気がつくと目頭に涙を感じてしまうからだ。今年のメッセージは鈴木結生（ゆうい）氏。「芥川賞作家とは言え、たかが24歳の若僧…私のような老人を泣かせられる訳がない！」。私は見くびっていた！

去年の市民クリスマスは75回目という節目だった。今年は市民クリスマスにとって最初の第四半世紀の1回目だ。幕が開くとまず西南学院チャペルクワイアの合唱2曲…幕が開くと同時に音楽というのは初めてだと思うが、これは良い趣向だった。オープニングの挨拶があり、いよいよ本番。

今年の音楽ゲストはプレギアーモ（イタリア語でLet's pray!の意）の弦楽四重奏である。曲目は『来たれ、友よ』、バッハの合唱曲2曲と『主よ、人の望みの喜びよ』、『G線上のアリア』、モーツァルトのディベルティメントK.136、シューベルトとマスカーニの『アベ・マリア』だった。マスカーニの『アベ・マリア』は『カヴァレリア・ルスティカーナ』の間奏曲と言った方が通りが良いかもしれない。



美しい音色を奏でるプレギアーモの演奏



自身の思い出や様々なクリスマスについて語る鈴木氏

さて、鈴木氏の登場である。「2000年間のクリスマス」と題して、彼の子どもの頃の思い出から始まり、時代と共に変化する人々のクリスマスに対する思いを洒脱に語ってくださった上、自身の作品で省かれていた外伝まで大サービス！

心に残る一夜だった。来年こそ泣かないぞ…いや、無理かな？

箱崎教会 糸川 銚

美野島司牧センターにとつて、2025年のクリスマスは特別な意味をもつものとなりました。美野島司牧センターの初代センター長であるパリ・ミッシェン会のマルセル・コース神父の精神を受け

継ぎ、私、カブチン・フラン



ちょっぴりおしゃれなジョンソンサンタ

れ、言葉や文化の違いを越えて、祈りに満ちた温かな雰囲気の中で行われました。ミサ後には、私自身がサ

ンタクコース役となり、思いがけない演出に驚きと笑顔が広がり、喜びのひとときを皆さんと分かち合うことができました。

また、12月23日に野宿者、困窮者支援団体の「美野島めぐみの家」に集まった貧しい人々へのクリスマスメッセー

美野島司牧センターで迎えた初めてのクリスマス

シスコ修道会のジョンソンが司牧を担うようになってから迎える、最初のクリスマスであったからで

当日の説教では、「神が赤ちゃんとされた」という、クリスマスの中心的な真理についてお話ししました。全能の神は、力や権威によつてではなく、弱さと貧しさを選び、無力な幼子としてこの世界に

来られました。その選択ゆえに、教会はいつの時代も、弱い人々、貧しい人々、見捨てられた人々のそばに立ち続け

てきたのです。マザー・テレサやアシジの聖フランシスコの霊性に触れながら、キリストは今もなお、壊れやすい命のただ中に生きておられることをお伝えしました。

また、12月23日に野宿者、困窮者支援団体の「美野島めぐみの家」に集まった貧しい人々へのクリスマスメッセー

ジでは、「二年で最も闇が深まる12月という季節にこそ、希望の光が与えられている」ということを語りました。不安や孤独の中にあつても、誰一

聖マリアグループ 合同クリスマス開催



アベイヤ司教による主の降誕ミサ

及ぶものであつた。主の降誕を祝うミサは、ヨゼフ・アベイヤ司教の主司式のもと捧げられた。その後、司教を含む10人の司祭団によるキャン

ドルサービス（クリスマスプレゼント）の配布が行われた。今回も聖マリア学院大学で学ぶ学生たちが歌う聖歌の間、グループ関連施設の患者の皆様約1000人に、一人ひとりプレゼントが手渡された。

「私はキリスト教ではありませんが、ありがたいです」と感謝の言葉を口にされる患者様もおられ、医療・介護の現場における福音宣教の一つの在り方を見ることができた。

聖マリア病院チャペレン室 石橋ゆづき

昨年12月25日、聖マリア病院（福岡県久留米市津福本町）において第73回聖マリアグループ（社会医療法人雪の聖母会・社会福祉法人平和の聖母・学校法人聖マリア学院）合同クリスマスが開催された。クリスマスミサに先立ち、病院のホスピス及び中央棟1階ロビーでは、大牟田の明光学園の生徒及び保護者によるクワイヤーチャイムの演奏が行われた。演奏内容は、主の降誕を祝うクリスマスメドレーなど、それぞれ30分に

恵み深い時となりました。美野島司牧センター長 ジョンソン・デソーザ神父（大楠教会、カブチン・フランシスコ修道会）

1月19、20の両日、カトリック中央協議会（東京都江東区）で各教区の広報担当者が集う会議が開かれた。日本カトリック司教協議会の広報宣教司教委員会からは、委員長

の勝谷太治司教（札幌教区）、担当司教の酒井俊弘司教（大阪高松大司教区）をはじめ、15教区中11教区から司祭、信徒、中央協議会広報部職員ら28人が参加した。

初日は「写真の基礎」をテーマに、スマートフォンを用いた撮影技術について、中央協議会専属フォトグラファーの峰脇英樹氏から学んだ。ピントの合わせ方や加工など、記事を魅力的に伝えるための手法が紹介された。翌日は酒井司教から、AIを活用した編集や校正の最新事情について講話があった。AIの速さを生かすことで、人にしかできない役割に注力できる点は有益だ。分ち合いでは、教区報を「余るから減らす」のではなく、「足りなくなるほど工夫する」必要もあるのではとの意見に、一同が聞き入った。派遣ミサで勝谷司教は、情報発信を通じて「相手に『温

もり』も届けられたら」と語った。私たちの広報は、イエスに倣う福音宣教である。聖堂の十字架を見上げながら、「人」にしかできないことに思いを巡らせた。

「人」にしかできないことに思いを巡らせた。

「人」にしかできないことに思いを巡らせた。

信仰にふれあえる場所「ナザレの家」

創立者である「旅人」（故人・協働体の中で呼ばれる名前）の長年の夢、依存症である我々が信仰と関わりながらも、より良い生き方を目指せるみんなが集まれる場所をつくりたいという願いから、今の「貧しい協働体」が始まっていきました。それがナザレの家なのです。

その歴史をさかのぼると、1998年の頃に南福岡のビルの2階にあったヤコブの家という施設の中で始まり、そこから場所を変えながら、麦野、大楠マンション、伊藤ビル2階、乙金、そして今のナザレの家に導かれたのです。場所は変わりましたが、信仰を求める気持ちは変わらなかったのだと思います。

ナザレの家では月に一度、青木悟神父様（小倉教会）のミサにあずかり、その他の週は故鈴木忠一神父様（御受難修道会）から始まった『イエスと出会う一福音書を読む』（教文館発行）を使った聖書の勉強会をやらせていただいています。近い将来、依存症と向き合う仲間たちが、気軽にミサにあずかれる場所になることを願っています。

昨年の12月14日には、青木神父様によるクリスマスミサが行われました。厳かではありましたが、イエスの誕生を盛大にお祝いすることができました。そして年明けの1月4日、ナザレの家に奇跡のような出来事が起きました。ヨゼフ・アベイヤ司教様によるミサにあずかることができたのです。ナザレの家に働くハイパーパワー（自分の意志を越えた大きな力）を感じるとともに神さまは本当にいるんだと実感しました。

ヨゼフ・アベイヤ司教様が以前言われた言葉「隣人を愛しなさい」。この言葉が私たちに必要な答えなのだと思います。確かな道を確かな仲間とともに、占星術の学者のように来た道を戻らず、新しい道を信仰と触れ合いながら進んで行きたいと思っています。

NPO法人 依存症リハビリ施設フリーダム 貧しい協働体 ナザレの家 水本 誠



聖体拝領を受けるミサ参加者たち



☆使徒的勧告 わたしはあなたを愛しているー貧しい人々への愛について

教皇レオ十四世（著）



教皇フランシスコが準備し、レオ十四世が完成させた使徒的勧告。「貧しい人の優先的選択」についての神学的根拠を聖書に探り、教父たちがそれをどのように実践したかを示すとともに、公会議や歴代教皇、ラテンアメリカの司教会議などの諸文書を踏まえ、現代のキリスト信者がいかにあるべきかを考察する。

カトリック中央協議会発行 税込価格990円

ど・ろさま

めん

Nagasaki Spaghetti

長崎スパゲッティ

Since 1883

株式会社サンフリード

ど・ろさま麺工場

長崎市西出津町2528-1

TEL(0959)23-0610

FAX(0959)23-0611

右記URLから

ご注文できます

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422

TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5

TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん

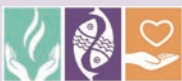
と一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

年間目標 『未来に開かれた教会』となる

四旬節 愛の献金

2026年2月18日～3月28日



大名町教会 ホームレス支援 スープの会

2月から3月の2週目までの毎週金曜日に炊き出し

【調理ボランティア】

14時～ 大名町教会 1階厨房

【夜回り（配布）ボランティア】

19時 初参加者レクチャー

20時 夜回り準備（袋詰め）

20時半 参加コース確認

21時 各コース夜回り出発

【献品】

テレホンカード、防寒着、冬服、

新品の下着・靴下、リュックサック（大）

【問合せ先】

☎ 080・1793・0481 深堀

☎ 080・4317・4152 飛永 ☎ 090・8412・7803 前田



聖週間の典礼を学ぼう！

聖週間の歴史、神学、典礼について学びながら、聖歌の実践練習を通して、有意義な聖週間を過ごすことを目指します。

【主催】福岡教区典礼委員会

【講師】西脇純（西南学院大学教授）

【日程】① 2月22日（日）14:00～16:00

（聖週間とは、受難の主日）

② 3月1日（日）14:00～16:00

（聖木曜日、聖金曜日）

③ 3月8日（日）14:00～16:00

（復活徹夜祭、復活の主日）

【場所】旧カトリック神学院 大聖堂

【参加費】自由献金 ※参加申し込み不要

【問合せ先】☎ 092・851・8032（担当：十時神父）

宣教養成委員会・信徒養成部門協力者
四旬節の黙想 沈黙のうちに主を見つめる【日時】2月21日～3月28日までの毎土曜日
9時～12時

【場所】大濠カトリック会館 宣教養成センター

顕示された聖体を礼拝し、自由に祈りの時

を過ごし、時間内を祈りのリレーで繋ぎま

す。ご都合の良い時間にご参加ください。

※参加申し込み不要。

COME, HOLY SPIRIT, FILL OUR HEARTS
祈りの集い PRAYER SERVICE

【日時】2月23日（月・祝）11:00～15:30

【場所】カトリック八代教会 聖堂

【内容】ミサ（ミサ後昼食）・御聖体顕示

祈りの集い・茶話会

【問合せ先】☎ 0965・32・4065（八代教会）



※どなたでもご参加いただけます。
※お弁当は各自ご持参ください。



— 召命を共に祈る会 —

福岡地区 2月17日（火）13時30分～ 大名町教会

ミサ 司式：O. ベルナルド神父（古賀教会）

【問合せ先】☎ 090・6422・2257（山口）

北九州地区 2月14日（土）14時～ 小倉教会

ミサ 司式：ジョン・ウォンチョル神父（戸畑・若松教会）

【問合せ先】☎ 0949・24・9905（藤井）

熊本地区 2月19日（木）9時30分～ 健軍教会

ミサ 司式：中村信哉神父（健軍教会）

【問合せ先】☎ 096・369・8896（松上）

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報2月号」、または
右記 QR コードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

2月のこよみ

福岡教区創立 100 周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう！

2027年7月16日まで

あと 17 ヶ月

2025年7月～2026年6月

テーマ：未来に開かれた教会となる

様々な記念企画が具体化し進行しています。
信徒による分かち合い劇 ヨブ記～K氏の場合～
共に与えられた「いのち」の意味を考えませんか。
2026年2月23日（月・祝）大名町教会大聖堂
13時から（1面参照）

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」（詩編25・14）

日時：2月12日（木）10時～15時

内容：モーセ：呼びかけに応える人「ここにおります」

回：3月12日（木）

内容：ダビデ：悔い改める人

「神よ、私の罪をぬぐってください」

問い合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎ 0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食
事と衣類 毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊き出し
3月2週目まで大名町教会
「スープの会」と協働
○路上からアパートに入居し
た方を訪問 第3土曜日14時
（問合せ先）☎ 092・431・
1419 ジョンソン・デソー

ザ神父
■大濠カトリック会館・宣教
養成センター
○ミニアサロン大濠
第1・第3水曜日10時
（問合せ先）☎ 092・753・
6765 角田
○みことばのお弁当
第4木曜日10時
（問合せ先）☎ 092・753・
6765 大濠カトリック会館
■宣教養成委員会「黙想と
祈りの集い」テゼの歌と共に
（日時）2月27日（金）19時
X・S・サミット助祭（オブレ

半く約1時間（場所）大名
町教会小聖堂（問合せ先）☎
080・3227・8295（杵）
マリアベネディクタ
鬼塚 ミサヲ 修道女
（厳律シスター会 伊万里の聖母修道院）
1月8日、老衰のため帰天。
享年96。誓願生活60年。
— お詫びと訂正 —
（1月号4面掲載）
X・S・サミット助祭（オブレ

ト会 ○S・サミット神父
（主催者より12月号4面掲載）
「ミニアサロン大濠2025
クリスマス会 フルート奏者
名 ×只隅朋美 ○只隈朋美
編集後記
週明けの月曜日と火曜日に
全国教区広報担当者会議に参
加したため、土日の事務所休
みと合わせるため、4日ぶりに
司教館へ出勤しました。
会議はとても和やかで、情
報交換や共有も進み、恵みに

あふれ、毎回、充実感と幸福
感に満たされます。
一方で、教区報の入稿週と
重なり、仕事の段取りや上京
準備に追われ、移動の疲れも
あって、年齢とともに気力だ
けでは乗り越えられない疲れ
も出始めました。
それを感じ取ってくれたの
でしようか。駐車場から事務
所の広報室へ向かう途中、い
つものスイセンとは違う良い
香りが漂ってきました。見上
げると、玄関前の紅梅が五分
咲き近くまで開花しているで
はありませんか！心なしか例
年より花も大きく、「お帰り」
と迎えてくれているようでし
た。あまりに上を見とれて、
危うく野良猫のふんを踏むと
ころでした（汗）。猫さんも
お迎えありがとう。（W）

【2月】

1日（日）年間第4主日 荒尾教会司牧訪問

教区宣教司牧評議会（大名町）

2日（月）主の奉獻 世界奉獻生活の日

3日（火）福者ユスト高山右近殉教者

5日（木）日本26聖人殉教者

7日（土）真命山司牧訪問

8日（日）年間第5主日 玉名教会司牧訪問

教区100周年記念誌委員会（大名町）

11日（水）世界病者の日

熊本地区宣教司牧評議会主催・青年司牧研修会

13日（金）厳律シスター会 伊万里の聖母修道院・終生誓願式

14日（土）手取教会司牧訪問（～15日）

15日（日）年間第6主日

16日（月）日本カトリック司教協議会総会（～20日）

18日（水）灰の水曜日（大斎・小斎）四旬節愛の献金（四旬節中）

22日（日）四旬節第1主日 老司教会50周年

23日（月）教区創立100周年準備企画・分かち合い劇

「ヨブ記～K氏の場合」感謝ミサ司式（大名町）

24日（火）全国シノドス担当者会議（～25日 大名町）

26日（木）福岡教区幼児教育連盟の集まり（大名町）

【3月】

1日（日）四旬節第2主日 人吉教会司牧訪問

■ゴシックは司教日程

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記
QRコード、または教区ホームページのカ
レンダーでご確認ください。

A Journey of Faith: From East-Timor to Japan
JOAO BAPTISTA PEREIRA (East-Timor O.P.)

My path to religious life unfolded not through a sudden flash of light, but through a quiet, steadfast call that matured amid family complexities, distance, and sacrifice. It is a story marked by resistance, grace, and growing trust in a journey often clouded by uncertainty.

This vocation first took root within my family and faith in East-Timor. After high school in 2014, I entered a time of discernment. However, my calling was not welcomed by all. My loving and pragmatic father, held a different dream for me: a secular career, a family of my own, and a life near home. His opposition was not rejection, but a protective fear for a son choosing a path he saw as difficult and lonely. This quiet strain became my vocation's first challenge, revealing how human love and divine purpose can pull the heart in opposing directions.

Yet, the call remained. In 2016, I entered the Order of Preachers, the Dominicans, attracted by their dedication to truth through study, prayer, and community. Leaving my family home, I found a new spiritual family. This soon required a greater physical departure: in 2017, I traveled to Hong Kong for formal formation. The farewell Mass in Dili was bittersweet. Amid support from my brothers and sisters in Christ, my family's absence was a profound void a tangible sacrifice laid before God. In that solitude, I learned that a religious calling can grow in the ground of holy absence.

The following years (2018-2025) shaped me through a structured rhythm from the reception of the Dominican Habit to solemn profession and deaconate ordination. Those initial, temporary vows prepared me for a permanent gift of self.

On May 22, 2025, in Macau, I pronounced my solemn profession, offering my life irrevocably to God through the Order of Preacher until death a lifelong covenant.

Yet, God's call continued to widen my horizons. Merely a month later, on November 12, 2025, I arrived in Japan as a Dominican missionary. Transitioning from the familiar settings of East-Timor, Hong Kong, and Macau, I now found myself in a land of ancient culture and deep spirituality, where Christians are a small minority. The mission field had transformed entirely. (…continued)

ドミニコ会 ヨハネ・ペレイラ助祭
（東ティモール）

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談
ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金（祝日を除く）

10:00～12:00 13:00～16:00